



中村 絵 撮影

2026 年度 長野県若槻支援学校グランドデザイン



長野県特別支援学校 重点目標

○児童生徒の可能性が最大限伸びる学び ○共生社会の実現に向けた協働の学び

- 1 すべての幼児児童生徒に対し一人ひとりのニーズに応じた教育を提供
- 2 特別支援学校の専門性の向上
- 3 地域や企業の方との協働の学びの充実
- 4 地元の同世代の友との交流及び共同学習の充実
- 5 幼保小中高等学校における特別支援教育の対応力の向上を支援

【学校教育目標】 わたしらしく あゆもう

【「わたしらしく あゆむ」児童生徒の姿】

わたしらしく学ぶ / わたしを知る / わたしらしくかかわる

【「わたしらしく あゆむ」を支える私たちのあり方】

私たちの専門性は、自分の「わたしらしさ（持ち味）」を生かし、「その子らしさの理解と支援」・「その子が今日に満足し明日を楽しみにする学校生活（授業）づくり」に向かう姿勢そのもの

- ・（学び）学び方を選ぶ・「わかる・できる」の繰り返し・実体験の重視
- ・（自己理解）自分の得意や苦手を知り、自分を受けとめる支援の継続
- ・（かかわり）共同生活者として、その子なりの人とのかかわりを支援

【本校の使命】

- ◎病弱教育の理解啓発
- ◎地域のセンター機能（精神疾患、発達障がい、疾病等の対応）
- ◎社会参加に向けた連携

【学校長の願い】

- ◎心を寄せた児童生徒理解
- ◎個の力を伸ばす学習支援
- ◎安心・安全な環境づくり
- ◎地域への発信と連携
- ◎ここで得たものを小中学校での実践に

◆魅力のある学習指導

- ・安心感のある授業（一人ひとりに応じた「わかる・できる」学習の工夫）
- ・主体性を大切に授業（自ら考え試す、実体験を伴う学習場面の設定）
- ・一人ひとりの学習を支える ICTの活用

◆生きる力を育む自立活動の充実

- ・チームによる多角的な児童生徒理解
- ・個と集団を視点にした自立活動
- ・日々の授業に生きる個別の指導計画

◆進路指導とキャリアサポート

- ・生徒に応じた実習先の開拓及び職業教育の推進（デュアル現場実習等）
- ・ライフステージに応じたキャリア教育（自己決定を支える体験的な学習）

<2026年度 学校運営の重点>

互いの「わたしらしさ（持ち味）」を生かし、互いの「次の一歩」を支え合う教職員の連携

◆健康指導の充実（自己理解に向け）

- ・健康な身体づくりの理解と実践の推進
- ・心身を健康に保つ生活リズムづくり
- ・自分で行う感染症予防の指導

◆人権を尊重した教育の充実

- ・互いに認め合う学校風土の醸成（個や集団での自立活動・校内相談）
- ・ハラスメントのない教育環境（性教育含）

◆医療や他機関、居住地校等との連携

- ・今と将来を支える医療、福祉、労働との連携（日頃の情報交換の重視）
- ・市町村教委との連携（転入学含む）
- ・副次的学籍制度の活用

◆安心安全な学校づくり（危機管理含）

- ・感染症対策
- ・緊急時対応（備蓄、医療的ケア、タイムライン、登下校時対応等）

◆相談機能の充実

- ・チーム支援に向けた校内教育相談（職員会の活用、専サポ・自立の会との連携）
- ・病弱の専門性を活かした校外教育相談

◆校舎改築 ・現校舎の生活の充実 ・新校舎に向けた諸準備

各部の運営の重点

【小学部】

- 自ら生活を楽しむ力を養う
- ・学ぶ楽しさを感じる児童
- ・自分のことと体に合せて生活する児童
- ・自分や友だちのよさを知りともに学ぶ児童

【中学部】

- わたしらしさを考えられる力を養う
- ・自己実現に向けて、わたしのペースで学ぶ生徒
- ・わたしを知り、自己決定する生徒
- ・いろいろな仲間とつながる生徒

【高等部】

- 社会自立に向けた力を養う
- ・進んで学び働く生徒
- ・社会自立を目指して生活する生徒
- ・自分も仲間も大切のできる心豊かな生徒

【のぞみ部】

- 人やものとかかわり豊かに生活する
- ・見て聞いて触れて感じ、楽しく学習する
- ・自分と他者、ものに気づく
- ・自分らしく表出する

【専門性サポートチーム】

- <校内> 児童生徒理解に基づくチーム支援
 - ・児童生徒理解と個に応じた支援に係る相談（専サポ・自立の会での情報共有、事例検討）
 - ・支援の共有とチームでの役割分担（迅速な対応＋校内相談日を活用したチーム支援）
 - ・病弱教育の専門性向上に向けた研修の充実（職員会の活用、外部専門家の活用）
- <校外> 地域への発信・関係者との連携
 - ・学校説明会の実施（病弱支援学校の周知）
 - ・わかようセミナー・ホームページの活用